

住所：台北市慶城街28號 通泰商業大樓
 TEL：02-2713-8000 FAX：02-2713-0706
 HP：http://www.koryu.or.jp/nihongo（日本語センター）
 E-mail：nihongo@mail.japan-taipei.org.tw
 発行：財団法人交流協会日本語センター
 編集：中尾真樹・余啓夫 編印：加冠印刷有限公司

日本語関係の高等教育機関における 交換留学の実情

（財）交流協会日本語専門家 中尾真樹

台湾の高等教育機関の日本語学科の中には、学生の日本語力の向上と日本理解を図るため、交換留学制度を設けているところが多い。しかし、各校が独自に行っているため、留学者数や留学先などの全体的な状況を把握することは難しい¹。そこで、本号では台湾の日本語関係の学科を有する高等教育機関を対象にアンケートを実施し、交換留学の現状を調査した²。

留学生の選考方法は各校さまざまだが、一般的には学部での2年生以上の成績優秀者を対象とし、口述試験と筆記試験によって選考する。そのほか、日本語能力試験2級取得を応募条件とする学校もある。今後の課題としては、留学先・留学生数の拡大と、奨学金制度の充実を挙げる声が多かった。留学の教育効果は高く、学生も希望してはいるものの、日本の物価の高さが大きな障壁となっているようである。以下、各教育機関の日本語学科・応用日本語学科から現在日本に留学している学生の数をまとめた³。

1. 台湾大学

種別	留学先	学生数
国立	お茶の水女子大学	2
	九州大学	1
	東京外国語大学	1
	東京学芸大学	1
	東北大学	2
	琉球大学	1
私立	関西大学	1
	慶應義塾大学	1
	創価大学	1
	明治大学	1
	早稲田大学	2
合計		14

* 来年度からは京都大学（国立）・北海道大学（国立）・国際教養大学（公立）への留学生も募集する。



多くの大学に留学生を送っている中国文化大学

2. 政治大学

国立	宇都宮大学	1
	お茶の水女子大学	2
	香川大学	1
	東京外国語大学	1
合計		5

3. 淡江大学

公立	国際教養大学	3
私立	京都橘大学	10
	城西国際大学	5
	城西大学	5
	長崎外国語大学	5
	麗澤大学	27
合計		55

- 1) 入国管理局によると、2004年に留学ビザで日本に入国した台湾人は1,220人であるが、大学のほか、専修学校の専門課程や高等専門学校などへの留学生も含まれており、その内訳は明確ではない。
- 2) 本稿では半年以上日本に滞在するケースを「留学」とみなし、夏期休暇期間などに行われる短期留学は除外した。
- 3) 表中の「種別」は国立大学法人（国立）・公立大学法人（公立）・私立大学（私立）の区別を表す。
- 4) 大学名の後に「(秋季)」とあるものは、半期のみの留学であることを示す。

4. 中国文化大学

4月募集生		
私立	大阪国際大学	3
	国士舘大学	1
	創価大学	1
	天理大学	4
	東京国際大学	2
	徳山大学	2
	平成国際大学	3
	別府大学	1
9月募集生		
私立	大阪経済法科大学	1
	淑徳大学	2
	天理大学	4
	名古屋学院大学	1
	二松学舎大学	2
	早稲田大学	1
合計		28

5. 東海大学

国立	大分大学	2
	群馬大学	3
私立	桜美林大学	2
	沖縄国際大学	3
	沖縄大学	1
	関西外国語大学	4
	北星学園大学	2
	佛教大学	1
	桃山学院大学	2
	立命館大学	2
	早稲田大学	1
合計		23

*来年度からは国際基督教大学(私立)・立命館アジア太平洋大学(私立)への留学生も募集。

6. 東呉大学

私立	拓殖大学	1
	明海大学	22
合計		23

*来年度からは宮崎大学(国立)・愛知大学(私立)・大東文化大学(私立)への留学生も募集。

7. 淡江大学技術学院

私立	青山大学	1
	京都橘大学(秋季4)	5
	駒澤大学	1
	津田塾大学	1
	長崎外国語大学	2
	平成国際大学(秋季)	8
	早稲田大学	1
合計		19

8. 輔仁大学

国立	佐賀大学	1
私立	福岡大学	2
	京都産業大学(秋季)	1
	上智大学	1
	南山大学	1
	ノートルダム清心女子大学	2
	梅光学院大学	2
	フェリス学院大学	2
	藤女子大学	2
	桃山学院大学	2
合計		16

*来年度からは聖心女子大学(私立)への留学生も募集。

9. 南台科技大学

私立	白鷗大学	3
	立命館アジア太平洋大学	3
	流通科学大学	3
	杏林大学	2
	久留米大学	2
	第一経済大学	2
合計		15

10. 銘伝大学

*留学期間は半年までとする。

国立	山形大学	2
私立	苫小牧駒澤大学	2
	明海大学	10
合計		14

11. 静宜大学

私立	鹿児島純心女子大学	5
	関西大学	2
	国際基督教大学	1
	九州女子大学	1
合計		9

*来年度からは神戸市外国語大学(公立)・桜美林大学(私立)・関西外国語大学(私立)・清泉女子大学(私立)への留学生も募集。

12. 真理大学

私立	城西国際大学	4
	新潟経営大学	1
	名城大学	3
合計		8

13. 大葉大学

私立	明海大学(秋季)	4
----	----------	---

14. 文藻外語学院

私立	志學館大学	2
	鹿児島純心女子大学	1
合計		3

*来年度からは神田外語大学(私立)への留学生も募集。

15. 育達商業技術学院

私立	城西国際大学	2
----	--------	---

16. 慈濟大学

私立	佛教大学	1
----	------	---

「日本語研究・日本語教育のためのコーパス利用」 滝沢直宏（名古屋大学大学院教授・ 東呉大学客員教授）

「コーパス」とは、簡単に言うと「電子化された大規模な言語資料」のことです。「電子化されている」とは、「コンピュータで処理することができる」ということを意味します。コンピュータは、高速・正確に情報を処理することができますから、その特性をいかすことで、膨大な言語資料から言語に関する様々な情報を抽出することが可能になります。

コーパスには、書き言葉（新聞、雑誌、書籍などからの抜粋）の資料や話し言葉（日常会話や講演などを文字化した資料）が収録されています。コーパスの利用は、特に英語において盛んで、辞書の編纂や詳細な言語事実の記述に積極的に活用されています。日本語に関しては、英語ほど盛んではなく、利用できるコーパスも多くはありませんが、それでも近年、日本語研究（そして日本語教育）にコーパスを活用する気運が高まっているように感じられます。

では、コーパスはどのような目的で用いられるのでしょうか。色々な用途が考えられますが、ここでは二つ述べることにします。

（１）語と語の自然な結び付き方を知る（コロケーションの網羅的抽出）

言葉には相性の善し悪しがあります。日本語で「めっきり」と聞けば、その後は「涼しくなりました」などが現れそうだとすることが予想できますし、「くれぐれも」であれば、後には「よろしく（お伝え下さい）」などが続きそうです。コーパスでは、こうした言葉の仲良し関係、語と語の慣習的な結び付き（コロケーション）を網羅的に捉えることができます。

コーパスを構成している各単語（日本語の場合、厳密には各形態素）には、形態素解析ツールによって、品詞情報を付与することができますから、その品詞情報を活用すれば、品詞を指定する形でコロケーションを抽出することができます。例えば、「茶釜」という解析ツールを使うと、「彼は渋い顔をした。」という文は以下のように解析されます。文が形態素単位で分離されているだけでなく、その後に詳細な品詞情報が付与されていることがわかると思います。

彼_名詞/代名詞/一般 は_助詞/係助詞 渋い_形容詞/自立
顔_名詞/一般 を_助詞/格助詞/一般 し_動詞/自立 た_助
動詞 。_記号/句点

このような情報を付与することによって、例えば、「形容詞＋名詞」（例えば、上の「渋い・顔」）、「副詞＋形容詞」（例えば、「甚だ・心もとない」）、「副詞（形容詞・形容動詞の副詞形を含む）＋動詞」（例えば、「きれいに・平らげる」）などのコロケーションを網羅的に抽出することが可能になります。その結果を頻度に加え、統計的手法を用いて解釈することによって、重要なコロケーションの認定が可能になるわけです。このようにして得られた情報は、日本語研究のみならず、辞書の編纂や様々な教材の開発にいかすことができます。

（２）ある表現がどのような形で実際に使われるかを知る（文法的生起環境の記述）

ある有名な本には、日本語に「雨が落ちる」という連語があることが指摘されています。しかし、これは、「昨日はたくさん雨が落ちました」のような使い方をすることはまずなく、実際には「球場に大粒の雨が落ちてきた・落ち始めた」のように、ある決まった形（ここでは連用形）のみで使われるのが普通、というように、現れる文法的形式が（ある程度）決まっている語句があります。ある表現が具体的にどのような使われるかを詳しく知るのにも、やはりコーパスは有益です。ある程度、内省を働かせれば捉えられる面もありますが、常に内省が有効に機能するというわけではありませんし、内省による判断が時に信頼性を欠くこともあります。実際に使われている使用例をたくさん見ることで、妥当な言語記述を行うことができるわけです。

講演では、こうしたコーパスの用途や有用性を述べ、併せて、コーパスを用いることの限界と注意点にも言及したいと思います。

本号の「日本語・日本語教育のキーワード」では、1月7日に第7回日本語教育実践講座でご講演いただく予定の滝沢直宏氏が、コーパスについて紹介してくださいました。

日本語教育実践講座につきましては、8ページをご参照ください。

台湾応用日語学会秋季学術研討会

10月22日、国立高雄餐旅学院を会場に台湾応用日語学会秋季学術研討会が行われた。分科会は、「法、商學及社會科學類」「餐旅教育類」「語言文化學、文學類」に分かれて行われ、合わせて10名の研究者による論文発表が行われた。次回は2月24日、国立屏東商業技術学院との共催で国際シンポジウムが行われる予定である。なお、当学会はホームページを一新した。詳しくは下記ホームページを参照。
<http://www.taja.org.tw/>

日本語文化研究国際シンポジウム

11月19日、台湾日本語言文学会と長栄大学の共催で「日本語文化研究国際シンポジウム」が行われた。「日本語と中国語の接点」というテーマで行われた今回のシンポジウムは、野田尚史氏（大阪府立大学教授）、土屋博映氏（跡見学園女子大学教授）、James Brown氏（敬和学園大学教授）の講演、及び「語学」「文学」「政治・文化」の各分科会で7名の研究者による論文発表が行われた。当日は会員大会も開催され新役員が選出された。

2005年度日本語教育学会国際学術研討会

12月3日、国立政治大学公企中心綜合大樓において2005年度日本語教育学会国際学術研討会が開催された。今年は「日本語教育と日本文化研究」というテーマのもと、台湾・韓国・中国・日本の研究者が集まった。今井雅晴氏（日本・筑波大学教授）と坂本恵氏（日本・東京外国語大学教授）の基調講演に続き、18名による論文発表が行われ、最後に楊凱榮氏（日本・東京大学助教授）と金恩淑氏（韓国・教員大学教授）の基調講演で幕を閉じた。詳しくは下記ホームページ参照。
<http://140.119.172.157/tjea/meeting.htm>

2005年度日本語文学術研討会

12月17日、台北市YMCA城中会館において、2005年度日本語文学術研討会が開催された。樫原修氏（広島大学教授）・山下明昭氏（香川大学教授）・金田智子氏（国立国語研究所主任研究員）の講演に続いて、10名の研究者により、古典文学から日本語教育学まで、多彩なテーマの論文発表が行われた。詳しくは下記ホームページ参照。

http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/

東呉大学主催 第7回 全国高校生日本語スピーチコンテスト



左から戴さん・游さん・袁さん・陳さん

10月29日、東呉大学において第7回全国高校生スピーチコンテストが行われた。今年度は33校68名の応募があり、日本語専攻組12名、日本語非専攻組8名が厳しい予選を通過し、本大会に臨んだ。このスピーチコンテストは明海大学・朝日大学の後援で、台湾のほか中国・韓国・オーストラリアでも行われ、各国の上位入賞者4名は明海大学で開催される「日本語教育国際フォーラム」に参加できることになっている。今年は11月26日にフォーラムが開催され、台湾代表の4名も、「国際日本語討論会」と「国際日本語スピーチコンテスト」に出場して各国の高校生とともに日頃の学習成果を競い合った。詳しくは<http://www.meikai.ac.jp/speech/>を参照。

【日本語専攻組】

- 第1位 游淑雯さん（台北市稻江護家）
- 第2位 陳冠廷さん（台中市新民高中）

【日本語非専攻組】

- 第1位 袁若慈さん（高雄市樹德家商）
- 第2位 戴一平さん（桃園市武陵高中）

第1回 台湾文化に関する 全国即興スピーチコンテスト

10月29日、高苑科技大学において「第1回全国台湾文化特色日語即習演説比賽」が行われた。台湾の文化について「伝統芸能」「地理、名勝、風水」「冠婚葬祭」「衣食住」の4つのテーマから当日抽選で一つを選び発表する形式で、21名の日本語を学ぶ大学生が出場した。日本語による台湾文化の発信を意図したこのスピーチコンテストは今後、毎年実施される予定である。詳しくは下記のホームページ参照。

<http://cc.kyu.edu.tw/~nichibun/speech/index.htm>

- 第1位 江瑄さん (大葉大学)
第2位 謝依媯さん (大葉大学)

第4回文藻週

2年に1度、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語と日本語の6言語に関し、演劇公演や様々なコンテストが一週間にわたって催される文藻外語学院の「文藻週」が、今年は10月17日から21日まで行われた。

日本語に関する催しでは、18日にディベート大会「論題：台湾は積極的安楽死を合法化すべきである。是か非か」、19日に朗読コンテスト、20日に五専部五年生による演劇公演「野菊の墓」、21日には、3人構成のグループによりマルチメディアによる視覚媒体を活用したスピーチコンテストが「日本の友人に台湾の美しさを紹介する」というテーマで行われた。主な入賞は以下の通り。

【ディベート大会】

- 第1位 南台科技大学
第2位 高雄第一科技大学

【朗読コンテスト 団体の部】

- 第1位 樹徳家商
第2位 新民高中

【朗読コンテスト 個人の部】

- 第1位 袁若慈さん (樹徳家商)
第2位 李由美さん (屏榮高中)

【マルチメディアを活用したスピーチコンテスト】

- 第1位 文藻外語学院
第2位 明道管理学院



演劇公演「野菊の墓」のクライマックス

日本アジア航空主催 日本語スピーチコンテスト

11月19日に第22回JAA杯日本語スピーチコンテスト北部地区大会が台北シェラトンホテルにおいて、11月27日に第15回南部地区大会が高雄市漢来飯店において開催された。北

部では20名、南部では14名が本選に臨み、学校関係者や家族が見守る中、日ごろの学習成果をさまざまなテーマで身振り手振りをまじえながら披露した。年々出場者のレベルも上がり、今年は特に台湾と日本の国際交流についてのテーマや、時事問題に関するものなど、テーマの選び方も大学生らしいものが多かった。今年にはJAA創立30周年にあたり、通常の入賞者以外に、「JAA30周年記念特別賞」が北部・南部それぞれ3名に贈られた。

【北部地区大会】

- 第1位 朱俐さん (輔仁大学法律系)
第2位 周家誼さん (政治大学日文科)

【南部地区大会】

- 第1位 周晋甲さん (文藻外語学院)
第2位 劉璋婷さん (高雄第一科技大学)

教育部・(財)交流協会・中央広播電台主催 高雄第一科技大学・東海大学・銘伝大学共催 94学年度全国大学専科学校 日本語スピーチコンテスト

12月18日に、中央広播電台の国際ホールにて94学年度全国大専校院日本語スピーチコンテストが行われた。今年度からは予選大会が開催されることとなり、南部・中部・北部の三つのエリアから日本語専攻組、非日本語専攻組各20名が選抜され、本大会に臨んだ。スピーチの手順も新しくなった。日本語専攻組の予選では、予め五つのテーマが与えられており、その中から当日に一つ指定された。決勝大会では当日に会場でテーマが与えられ、15分の準備の後スピーチを行った。また、非日本語専攻組は予選・決勝で異なる内容のスピーチを行い、決勝戦ではスピーチの後、審査員からの質問に答えた。発音や発表態度のほか、日本語専攻組はテーマに即した内容を短時間で分かりやすい構成にまとめることが求められ、非日本語専攻組は的確な受け答えをする能力が問われる。時間の制限もあり、条件は非常に厳しいが、出場者たちは落ち着いた態度でしっかりしたスピーチを披露し、年をおって全体的なレベルが向上してきていることがうかがわれた。

【日本語専攻組】

- 第1位 張媯玲さん (慈済大学)
第2位 謝宜珊さん (文藻外語学院)

【日本語非専攻組】

- 第1位 林怡婷さん (台湾大学)
第2位 許茜茹さん (文藻外語学院)

主催：交流協会・東呉大学

指導単位：教育部

**協賛：日本亜細亜航空・郵船通運股份有限公司
国立教育広播電台**

第2回 全国大学生日本語ディベート大会

全国大学生日本語ディベート大会が、2006年3月4日、東呉大学を会場に行われる。今年度は「台湾は炭素税を導入すべきである」を論題に初参加の6校を含む16校が参加しトーナメント形式で行われる。

ディベートとは「一つの論題について、肯定側と否定側に分かち、第三者（審判）を説得する形で討論する」ことである。本大会では直前にくじ引きで肯定、否定を決めるので、出場校は両方の立場からの準備が必要となる。また、審判を説得できるか否かが勝敗を決めるので、証拠資料の調査や論理的な意見の構築が求められる。日本語教育によるディベートは、意見を聞いたり、述べたりする活動が、コミュニケーション能力の向上に繋がり、資料の検討、情報の加工、共有等は、読解力や作文能力の向上、及び論理的思考の形成に寄与すると考えられている。すでに授業の一環として取り入れている教育機関もあり、ディベーターとしての出場だけではなく、立論や反駁のための調査、作戦への関与等を通して、多くの学生の参加も可能となる。

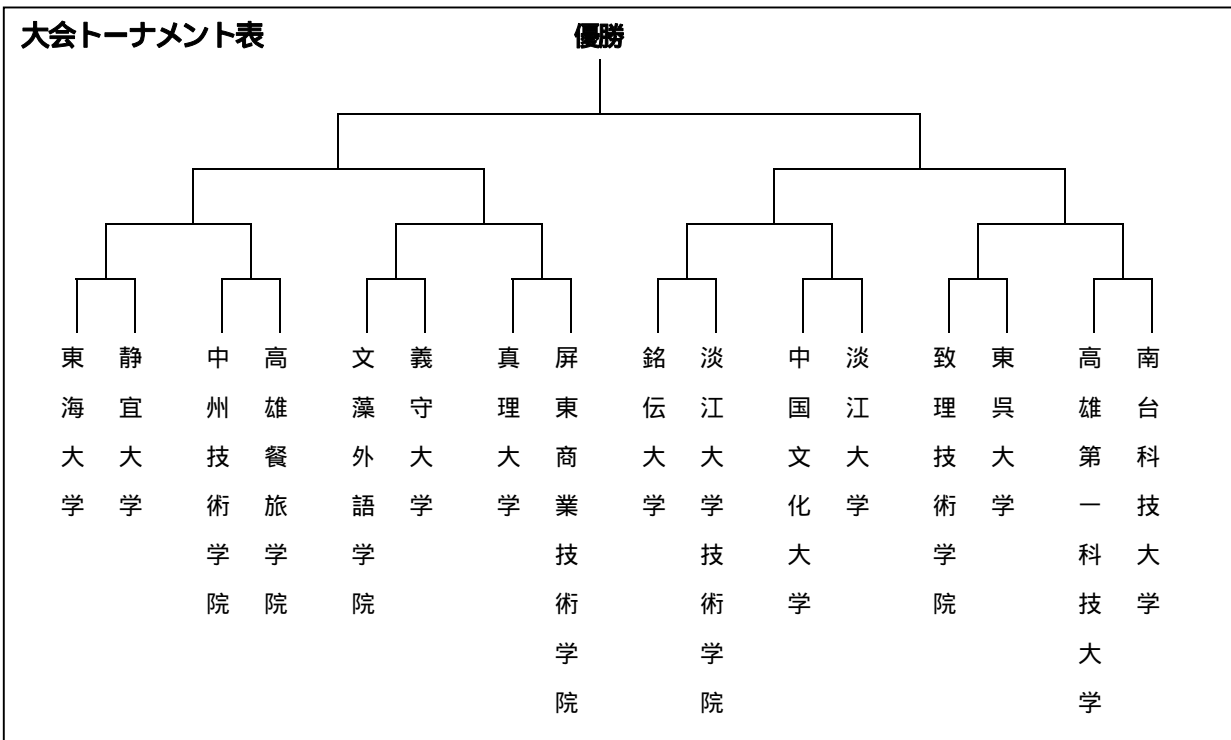
なお、本大会は日本語教育におけるディベートの普及を図るため、論題や論題背景、論題に関する用語集、大会ルール、



今年3月26日に行われた第1回ディベート大会の様子

参考サイト等を交流協会日本語センターホームページで公開しており、研修会も開催している。10月（15日台北、22日高雄）には、関口要氏（樹人医護管理学校）を講師に招き「日本語教育とディベート—指導と実践—」と題する研修会が行われた。また12月10日（高雄）、11日（台北）には羅濟立氏（東呉大学）、永井江理子氏（真理大学）を講師に、出場学生に向けた研修会と大会の組み合わせ抽選会が行われ、下のように大会当日の組み合わせが決定した。

2006年1月7日（高雄）、8日（台北）には橋本行平氏（大博士短期語文補習班塾長）を講師に「日本語教育におけるディベートの審査・評価・フィードバック」と題する、審判員養成を中心とした研修会が行われる予定である。



2005年度第2回特別講演会



蔡政奮氏

10月1日に、2005年度第2回特別講演会が「ビジネス社会で求められる日本語2」と題し、日本語センターで開催された。第1部では、まず蔡政奮氏（育達商業技術学院専任講師）が長年日本企業に勤務した経験を踏まえ、企業内で求められる日本語能力について述べた。次に高貴敏氏（保聖那管理顧問股份有限公司）が、人材紹介会社の立場から、日本語学習者の就職の実情についてデータを示しながら説明した。第2部では、就職活動の注意点が紹介された後、来場者からの質問に講師2名が丁寧に回答した。日ごろ聞く機会の少ない実際的な内容に、来場者は熱心に聞き入った。



高貴敏氏

2005年度第3・4回特別講演会



林炳奇氏

通訳・翻訳に関する特別講演会が10月23日（第3回）と11月6日（第4回）に日本語センターにて行われた。第3回では、「日本語学習と通訳」をテーマに周偉琴氏（中国文化大学推広中心日中口筆訳課程講師）を講師に迎えた。まず通訳の仕事内容について、必要とされる場面・分野毎に求められる能力・条件などを中心に説明された。続いて聴解能力養成のための練習方法やメモの取り方など通訳に必要な基本的なテクニックとそのトレーニングの方法が披露され、日本語学習・日本語教育にどのように取り入れることができるか、来場者と活発な意見交換が行われた。第4回では「日本語教育における通訳・翻訳」をテーマに、林炳奇氏（PA通訳研究会）を講師に迎えた。技術分野を中心に会議通訳を行う際の三つの注意点（意思疎通の目的が達成できるよう援助すること、双方が相手方の意志を理解できるよう努めること、単なる言葉の変換ではなく内容を通訳すること）が紹介された後、実際の音声素材を



周偉琴氏

用いた通訳の体験・演習が行われた。難解なイメージのある通訳技術が分りやすく解説され、日本語学習との接点・応用を考える際の大きなヒントとなった。

第30回中等教育研修会

10月22日、第30回中等教育機関日本語教師研修会が日本語センターにおいて開催され、邱英英氏（華僑高校専任講師）、津留専門家・堀越専門家（交流協会日本語センター）の3名により、「ひらがなの教え方、アイデア・シェアリング」というテーマで、実践も交えた講義が行われ



邱英英氏

た。第1部では、ひらがなの導入にあたっての指導手順とその留意点が、第2部では、ひらがなを定着させるための練習のポイントとタスクの実例などが紹介された。第3部では、認知心理学・第二言語習得の観点からひらがなの習得の理論と指導方法が紹介された。最後に、参加者それぞれから日ごろ実践しているアイデアや教える際の悩み、それに対する意見が出され、参加者全員で問題を共有する研修会となった。

第31回中等教育研修会

12月10日、小川京子氏（華民国対外貿易発展協会）を講師に迎え、日本語センターにて第31回中等教育機関日本語教師研修会が行われた。今回は、「おおぜいでも、話して学べる楽しい日本語」というテーマで、入門期の学習者を想定し、参加者は「大人数のクラス」でも「すぐ使える」「実践的」で「楽しく」「話す」教室活動を、学習者の立場から体験した。研修では小川氏の著作の一つである『文化初級日本語』のアクティビティーを例に、ペアワーク・グループワークを通し、指導の際、教材作成の際の留意点が説明された。研修の最後には、教室活動におけるアクティビティーの位置づけと、学習者がそのような話すことを中心とした授業や活動をどのように評価しているのか、小川氏自身の授業についての分析が紹介された。研修後、参加者からは「実用的で役に立つ」「学習者の気持ちが少しわかった」等の声が寄せられた。



小川京子氏

第7回日本語教育実践講座

テーマ：「日本語研究・日本語教育のための
コーパスの利用」
講師：滝沢直宏氏（名古屋大学大学院教授）
日時：1月7日（土）14:00～17:00
会場：文藻外語学院（高雄市民族路900号）
問い合わせ：交流協会高雄事務所

第3回ディベート特別研修会

テーマ：「日本語教育におけるディベートの審査・
評価・フィードバック」
講師：橋本行平氏（大博士短期語文補習班）
〈高雄会場〉
日時：1月7日（土）10:00～12:00
会場：文藻外語学院（高雄市民族路900号）
問い合わせ：交流協会高雄事務所
〈台北会場〉
日時：1月8日（日）13:00～15:00
会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター
問い合わせ：交流協会台北事務所日本語センター

第5回特別講演会

テーマ：「文化交流から見た江戸時代の東アジア世界」
講師：岡本さえ氏（東京大学名誉教授）
日時：1月14日（土）14:00～16:00
会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター
問い合わせ：交流協会台北事務所日本語センター

2005年度日本語教育冬期研修会

テーマ：「評価の実践と活用」
講師：伊東祐郎氏（東京外国語大学
留学生日本語教育センター教授）
島田めぐみ氏
（東京学芸大学留学生センター助教授）
〈台北会場〉
日時：2月15日（水）・16日（木）9:00～16:30
会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター
問い合わせ：交流協会台北事務所日本語センター
〈台中会場〉
日時：2月17日（金）9:00～17:00
会場：東海大学（台中市中港路三段181号）
問い合わせ：交流協会台北事務所日本語センター
〈高雄会場〉
日時：2月19日（日）9:00～17:00
会場：文藻外語学院（高雄市民族路900号）
問い合わせ：交流協会高雄事務所

第6回特別講演会

テーマ：「〈応用〉日語系における通訳教育の現状と展望」
講師：楊承淑氏（輔仁大学翻訳学研究所教授）
日時：3月25日（土）15:00～17:00
会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター
問い合わせ：交流協会台北事務所日本語センター

日本語文学会例会

日時：第206回例会 1月21日（土）
第207回例会 2月18日（土）
第208回例会 3月18日（土）
会場：台湾YMCA 城中会議所
問い合わせ：日本語文学会
（http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/）

2006年全国台湾応用日語学術研討会

日時：2月24日（金）
会場：国立屏東商業技術学院
問い合わせ：台湾応用日語学会
（<http://www.taja.org.tw/>）
国立屏東商業技術学院 応用日本語学科
（08-723-8700 内3401 林碧如）

銘伝大学2006国際学術研討会

テーマ：「応用語文教育的理論與實際」
日時：3月18日（土）
会場：銘伝大学桃園校区
問い合わせ：銘伝大学応用日語学系
（<http://www.mcu.edu.tw/department/app-lang/japan/index.htm>）

台湾日本研究学会主催

2006年全国大専校院日本語スピーチコンテスト

日時：3月25日（土）
会場：国立台湾師範大学教育大楼2F
問い合わせ：台湾日本研究学会連絡処
（02-2704-2962 劉修慈小姐）

『いろは』12月20日号 目次

- 1 2 台湾日本語教育情報源
- 3 日本語・日本語教育のキーワード
- 4 日本語教育ニュース
- 4 5 スピーチコンテスト特集
- 6 デイバート大会情報
- 7 日本語センターの活動報告
- 8 台湾日本語教育関連情報

情報をお寄せください

台湾の日本語教育に関する情報を募集しております。また、本誌に対するご意見やご要望もお待ちしております。詳細は日本語センターまでお問い合わせください。

TEL：02-2713-8000（代表）

FAX：02-2713-0705

E-mail：nihongo@mail.japan-taipei.org.tw